

ジェブタナ®

ジェブタナによる治療を受けられる方へ 治療のてびき

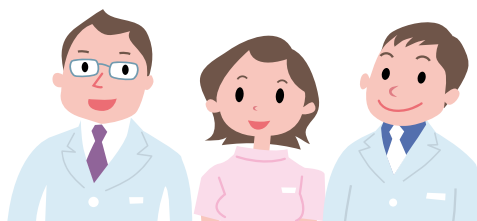
目次

■ジェブタナについて	3
ジェブタナとはどのようなお薬ですか？	3
ジェブタナによる治療はどのように行いますか？	4
■ジェブタナの副作用とその対策について	5
副作用はなぜ起こるのでしょうか？	5
どのような副作用が起こるのでしょうか？	6
<small>こつずいよくせい</small> 骨髄抑制による感染症 特に注意いただきたい副作用	7
アレルギー	11
下痢	12
吐き気・嘔吐、食欲不振	13
味覚の変化	13
<small>けんたいかん</small> 疲労感(倦怠感)	14
<small>こつずいよくせい</small> 骨髄抑制による貧血	14
<small>まっしょうしんけいしょうがい</small> しびれ(末梢神経障害)	15
不整脈	15
<small>かんしつせいはいえん</small> 間質性肺炎	16
お腹の副作用(消化管出血、消化管穿孔、イレウス、腸炎)	16
肝臓や腎臓の不調	17
ステロイド剤による副作用	18
■体調記入表	19

この冊子では、ジェブタナによる前立腺がんの治療を安全に受けていただくために、お薬の主な副作用とその対策、注意が必要な症状、日常生活で参考にいただける内容をまとめています。

がんと上手につきあいながら、できる限りいつも通りの生活が続けられるように、スタッフも一緒にお手伝いしていきます。

不安な点やわからないこと、さらに詳しく知りたいことなどがありましたら、遠慮なく担当の医師や看護師、薬剤師におたずねください。



下記の項目に1つでもあてはまる方は、治療をはじめる前に担当の医師に必ずお知らせください。

- 市販されているものも含め、現在何らかのお薬を服用中の方
- 他の医師または歯科医師による治療を受けている、またはこれから受けようとしている方
- 風邪をひいている、または熱がある方
- 糖尿病の方
- 白内障、または緑内障の方
- 肺疾患（肺炎や肺線維症など）をわずらっている方、またはかかったことのある方
- 肝機能障害のある方
- 以前にお薬の内服や注射などの治療を受けて、発疹（皮膚のぶつぶつ）やかゆみ、あるいは強いアレルギー症状（気管支けいれん、全身性の皮膚症状、低血圧など）が現れたことのある方
- アルコールに過敏^{*}な方、アルコール不耐症^{**}の方



※：注射時のアルコール消毒で皮膚が赤くなる

※※：少量の飲酒で顔や全身が赤くなったり、具合が悪くなったりする（心拍数が増える、呼吸が乱れる、吐き気がする、など）

投与後に気分のすぐれない方は症状が治まるまでは、
病院にて安静にしてください。

ジェブタナについて

ジェブタナとはどのようなお薬ですか？

ジェブタナはヨーロッパイチイという針葉樹の葉から抽出された成分で作られた、点滴で投与する抗がん剤で、「タキサン系」と呼ばれるグループに属しています。前立腺がんの治療薬として、すでに世界60を超える国や地域で使用されています。がん細胞の分裂を途中で止めるはたらきがあり、がん細胞の増殖を抑制します。

ジェブタナは、内分泌療法と化学療法(ドセタキセルなど)もしくは化学療法(ドセタキセルなど)を行ったあとの患者さんに対する効果が報告されているお薬です。



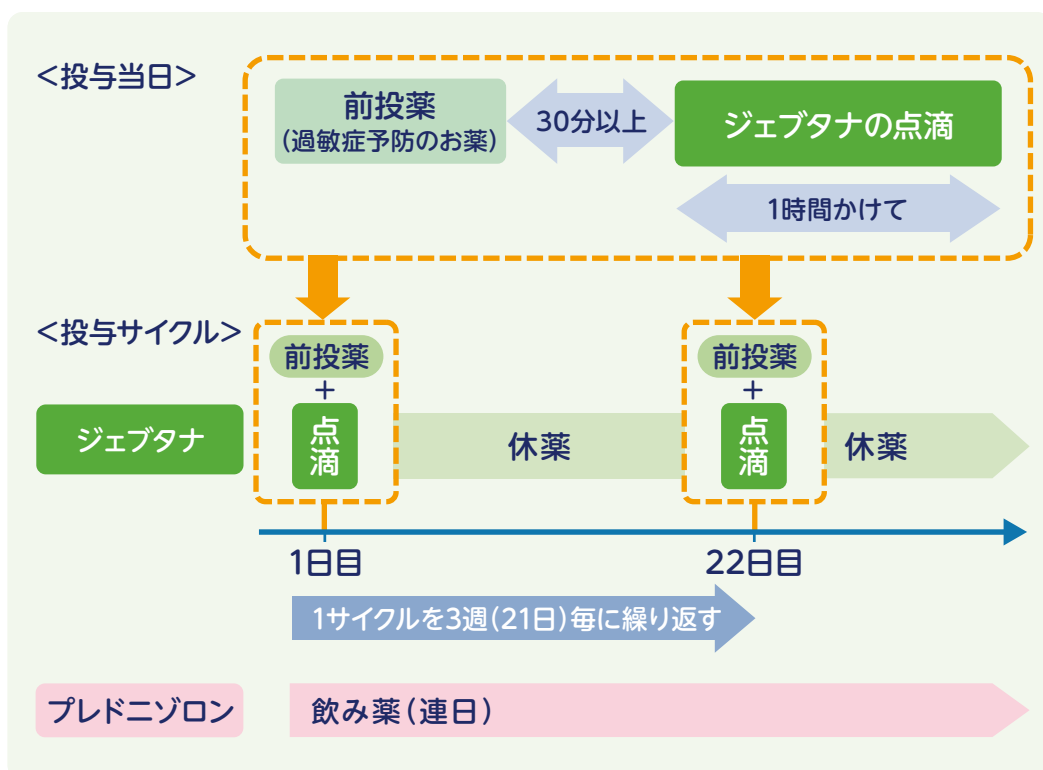
ジェブタナの点滴を受ける際の注意点

ジェブタナによる治療を安全に受けていただくために、点滴中は以下の点にご注意ください。

- ジェブタナの点滴はアルコールを含んでいます。アルコールに弱い方、過敏な方は事前にお申し出ください。
また、アルコールに対する反応には個人差があることから、気分がすぐれない場合や体調が悪い場合は、落ち着くまで安静にお過ごしください。
- お薬が血管の外に漏れないよう、点滴中は安静にしてください。
- 点滴中に注射部位が腫れたり、痛みや灼熱感(焼けるような熱さ)を感じたりするときは、近くにいる医師や看護師、薬剤師しゃくねつかんにすぐにお知らせください。
- 点滴中に息苦しくなったり、胸が苦しくなったり、吐き気がするなど、少しでも気分が悪くなったら、我慢せずに、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。

ジェブタナによる治療はどのように行いますか？

- ジェブタナは1回投与したあと、少なくとも20日間休薬します。
- 上記を1サイクルとし、数サイクルを繰り返し行います。
- 過敏症を予防する目的で、ジェブタナ投与前に注射[抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン剤(ステロイド剤)、H₂受容体拮抗剤など]をします。
- 「プレドニゾロン*」というお薬と組み合わせて投与します。
※ステロイド剤と呼ばれるお薬で、抗炎症作用があります。
- 副作用が現れたり体調がすぐれない場合は、投与間隔をあけたり、お薬の量を減らしたり、回復するまで治療を延期することがあります。
- 投与スケジュール



治療の内容は患者さんによって異なりますので、詳しいことは担当の医師におたずねください。

ジェブタナの副作用とその対策について

副作用はなぜ起こるのでしょうか？

抗がん剤は体内に入ったあと、血液の流れに乗って全身に運ばれ、がん細胞を攻撃します。ただ、このとき抗がん剤はがん細胞だけでなく正常な細胞も傷つけてしまうことがあり、これが副作用として現れます。

したがって、抗がん剤を使うがん化学療法では、効果を得るために副作用は避けては通れないものであり、副作用を最小限に抑えながら、効果を最大限に引き出すことが治療のポイントとなります。最近では、抗がん剤による副作用をやわらげるための治療法が進歩し、副作用と上手に付き合いながら治療を続けられるようになってきました。

抗がん剤による副作用の種類や程度は、お薬によっても患者さんによってさまざまです。早い段階で気づいてすぐに対処することが大事です。

そのため、抗がん剤の治療を安全に続けていただくためには、患者さんに副作用のことをよく知っていただき、普段と違う、体調がすぐれないなどの違和感を覚えたときに、早い段階で医師や看護師、薬剤師などに相談していただくことがとても重要になってきます。



治療で見られる主な副作用は何でしょうか？

ジェブタナによる治療でよくみられる副作用を下表にまとめ、また次のページからそれぞれの副作用について症状、対策などを解説しています。よく読んでご理解いただいた上で、副作用が起きた場合は、医師や看護師、薬剤師と相談しながら適切な対応を行っていきましょう。

※副作用が強く出る場合は、ジェブタナを減量したり投与スケジュールを変更したりすることがあります。たとえ治療がスケジュール通りに行われなくても無理をする必要はありません。

主な副作用	参照ページ	主な副作用	参照ページ
<small>こつ ずい よく せい</small> 骨髄抑制による感染症	→7ページ	不整脈	→15ページ
アレルギー	→11ページ	<small>かん しつ せい はい えん</small> 間質性肺炎	→16ページ
下痢	→12ページ	お腹の副作用 (消化管出血、消化管穿孔、 <small>せん こう</small> イレウス、腸炎)	→16ページ
吐き気・嘔吐、食欲不振	→13ページ	肝臓や腎臓の不調	→17ページ
味覚の変化	→13ページ	ステロイド剤による副作用	→18ページ
<small>けん たい かん</small> 疲労感(倦怠感)	→14ページ		
<small>こつ ずい よく せい</small> 骨髄抑制による貧血	→14ページ		
<small>まっしょうしんけいしょうがい</small> しびれ(末梢神経障害)	→15ページ		



予想される副作用について
あらかじめ必要な対策を立てておくと、
症状の悪化を防ぐことができます。

特に注意いただきたい副作用

こつ ずい よく せい

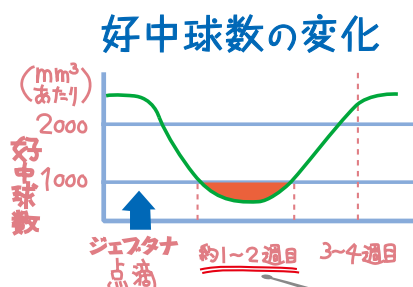
骨髄抑制による感染症

▶ 骨髄抑制と感染症との関係

血液の中には白血球、赤血球、血小板という血球があり、それらは骨髄で作られています。抗がん剤の影響によって骨髄の機能が低下することを骨髄抑制といいます。ジェブタナは骨髄抑制作用を持つことが報告されています。

そのため、治療後に、細菌から身体を守る役割を担う白血球、特に好中球という成分が一時的に大きく減少し、身体の抵抗力が低下して風邪や肺炎などの感染症にかかりやすい状態になります。

感染症は、重症化すると全身の臓器が正常に働かなくなるなど、命に関わることもあります。しかし、早い段階で気づけば、抗生物質を使用したり、好中球を増やすお薬を使って治療したりすることができます。また骨髄の機能を回復させるために、ジェブタナの投与量を調節したり、投与を延期したりすることもあります。



それぞれの患者さんで好中球数の減少の程度は異なります。

すぐに!



下記の症状が現れたら、感染症の疑いがあります。
生命に関わることもありますので、すぐに担当の医師や
看護師、薬剤師に連絡し、来院してください。

- ✓ わきの下37.5℃ (口腔内38℃)以上の熱がある
- ✓ 咳が出る
- ✓ 寒気がする
- ✓ のどの痛みがある
- ✓ 排尿時に痛み、焼けるような熱さを感じる
- ✓ 腰やわき腹に痛みがある



▶ 骨髄抑制が起こりやすい時期と注意点

好中球の数はジェブタナの点滴後7～14日目くらいに最も少なくなり、その状態は1週間程度続きます。点滴後1～2週間くらいの間は大変感染しやすい時期ですので、日常生活での感染症予防対策(10ページ)を参考に、注意しながら生活してください。また、担当の医師の指示には必ず従ってください。

注意!



好中球の数が下がっているだけでは自覚症状はありません。
感染症には十分注意してください。

特に注意いただきたい副作用

こつ ずい よく せい

骨髄抑制による感染症(続き)

▶ お薬による感染症対策

感染症の予防や悪化防止のため、お薬による治療を行うことがあります。詳しくは、担当の医師や看護師、薬剤師の指示に従ってください。

お薬による対策

感染症の予防(好中球を増やすお薬の投与)



- ・通常は、ジェブタナ点滴後の血液検査で好中球の数が減っていることが確認されると、好中球の数が回復するまで数日間続けて注射します。
- ・感染症を起こす可能性が高い方や、以前のジェブタナ投与で好中球減少がみられた方、ジェブタナによる治療をスケジュール通り行う必要がある方では、予防的に投与することもあります。

感染症の予防、もしくは悪化防止(抗菌薬の投与)



- ・細菌を殺したり増殖を抑制します。
- ・処方された場合は、必ず医師の指示通りに服用してください。

日常生活での感染症予防対策

うがい、手洗い 外出から帰ったとき、食事前、トイレのあとには、石けんを使って手をよく洗う。こまめにうがいをする。



清潔 なるべく毎日入浴し、身体を清潔に保つ。

排便時 肛門の周りを傷つけないように注意する。可能であれば温水洗浄便座を使用し、肛門周囲を清潔に保つ。

口腔内

- ・虫歯は前もって治療しておく。
- ・義歯を使用している場合は調整しておく。
- ・口の中を傷つけないように、清潔でやわらかいブラシを使って歯や舌のブラッシングを行う。



外出 外出はなるべく控え、人混みを避ける。特に風邪など感染症にかかっている人との接触を避ける。



アレルギー

点滴中にアレルギー症状が現れることがあります。その多くは軽症ですが、まれに急に血圧が下がるといった症状が起こることもあります。

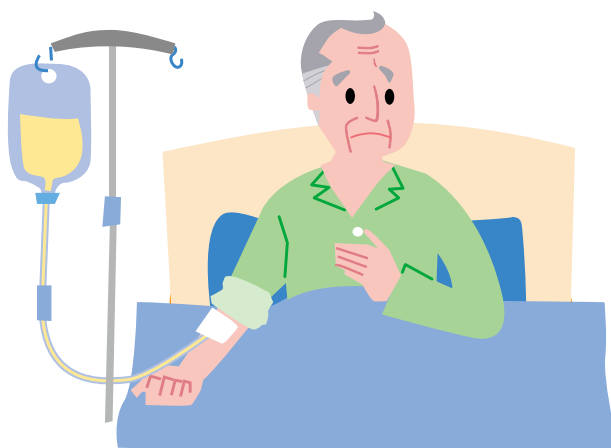
すぐに！



点滴中に下記の症状が現れたらすぐに近くにいる医師や看護師、薬剤師にお知らせください。

- ✓ 点滴部位が腫れたり、痛くなったり、熱い感じがする
- ✓ 息苦しさ、胸の苦しさや痛みを感じたり、心臓がドキドキする
- ✓ 発疹が出たり、身体にかゆみを感じたり、顔がほてる

アレルギー症状は、多くの場合、点滴を始めてから数分以内に起こります。



下痢

下痢が起こる場合があります。脱水症状を防ぐため水分を補給するとともに、症状によっては下痢止めのお薬を使うことがあります。

すぐに！



下記の症状が現れたらすぐに担当の医師や看護師、薬剤師にお知らせください。

- ✓ 下痢と発熱が同時に起こった場合
- ✓ ひどい下痢が続く場合

特に、発熱と下痢が同時に起こった場合はすぐに来院してください。

日常生活での対策

脱水を防ぐ

スポーツ飲料などで水分、電解質を十分に補給する*。

食 事

少しずつ回数をわけてとるようにする。

控えた方がよい食品

- ・乳製品
- ・香辛料を使った食べ物
- ・脂っこい食べ物
- ・食物繊維の多い食べ物（生野菜、果物、豆類など）
- ・アルコール
- ・炭酸飲料
- ・ジュースなど甘さの強い飲み物
- ・コーヒーなどカフェインを含む飲み物

排便後の清潔

感染症を防ぐため、肛門の周りを清潔に保つ。



*下痢によって、電解質（ナトリウム、カリウムなど）が水分と一緒に排泄されてしまいます。

吐き気・嘔吐、食欲不振

吐き気・嘔吐、食欲不振などの消化器症状が現れることがあります。吐き気止めのお薬を用いることにより、症状を予防、あるいはやわらげることができます。



下記の症状が現れたら担当の医師や看護師、薬剤師にお知らせください。

- ✓ 1日に何回も嘔吐してしまう
- ✓ 吐き気が長期にわたって続く
- ✓ 嘔吐のため、水分もとれない
- ✓ 吐き気のため、お薬を飲むこともできない



味覚の変化

味覚が変わることがありますが、ほとんどの場合、治療が終わるともとに戻ります。



疲労感(倦怠感)^{けんたいかん}

「だるい」、「身体が重い」、「疲れやすい」といった疲労感(倦怠感)を感じることがあります。気になる場合は**我慢せずに**担当の医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

日常生活での対策

- 睡眠や休養** 十分にとる。
- 無理は禁物** 自分のペースで行動する。
- 軽めの運動** 負担にならない程度に行い、気分転換をはかる。



骨髄抑制による貧血^{こつすいよくせい}

ジェブタナによって骨髄の働きが抑制され、赤血球が作られなくなって減少するため、貧血が起こることがあります。疲れやすい、顔色が悪い、めまいや立ちくらみ、息切れ、動悸、頭痛などの症状が現れた場合は、担当の医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

日常生活での対策

- 動作** めまいや立ちくらみがある場合は、ゆっくりと動き、急な動作は避ける。
- 保温** 新陳代謝が低下するので、体を温めるよう心がける。
- うがい、手洗い** 抵抗力も低下するため、感染症対策としてうがいや手洗いを行う。

まっしょうしん けいしょうがい しびれ(末梢神経障害)

手や足の指がしびれたり、感覚が鈍くなったり、うまく動かなくなったりすることがあります。

軽い症状は自然に治ることもありますが、もとに戻りにくい場合もあります。症状によっては、ジェブタナの投与を中止し、様子を見ることもあります。

症状が続くときや、これまでの治療の影響が残っていた方がさらに悪化した場合は、担当の医師や看護師、薬剤師にご相談ください。



日常生活での対策

けがに注意

- ・熱いものや刃物などの取り扱いに注意する。
- ・階段の上り下りなどでけがをしないよう、注意する。

不整脈

不整脈が起こることがあります。急に心拍数が増えたり、逆に減ったり、脈が飛ぶなど不安定になったり、胸が苦しいなどの症状が現れた場合は、心電図などの検査が必要なこともありますので、担当の医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

かんしつ せい はい えん 間質性肺炎

抗がん剤を投与することによって、間質性肺炎という肺炎が起こることがあります。間質性肺炎とは、肺の中の肺胞^{はいほう}と呼ばれる部位の壁やそのまわりに炎症が起こる重い肺炎です。

すぐに！



下記の症状が現れたらすぐに担当の医師や看護師、薬剤師にお知らせください。

息切れする

空咳が出る

息苦しい

発熱

お腹の副作用 (消化管出血、消化管穿孔^{せんこう}※、イレウス、腸炎)

腸の出血やねじれ、炎症などが起こることがあります。腹痛や血便などの症状が現れた場合は、内視鏡などの検査が必要な場合もありますので、担当の医師や看護師、薬剤師にご相談ください。ジェブタナの投与中止などの対応を行うこともあります。

※ 消化管に穴が空くこと

肝臓や腎臓の不調

治療中に、肝臓や腎臓の機能が悪化することがあります。はっきりとした症状が現れないこともありますし、症状からだけでは判断できないことが多いので、治療中は定期的に肝臓や腎臓の検査を行います。検査の結果によっては、ジェブタナの投与量を調節したり、投与スケジュールを変更したり、投与中止などの対応を行うことがあります。



下記のような症状があらわれた場合は、担当の医師や看護師、薬剤師にお知らせください。

- 体がだるい
- 尿が少なくなる/出ない
- 顔色が悪い(黄色っぽい)
- 血尿
- むくみ



ステロイド剤による副作用

ステロイド剤を長い間服用し続けると、下記のような症状や病気が起こることがあります。こうした病気が起こっていないかを確認するため、定期的に検査を行うことがあります。気になることがありましたら担当の医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

ステロイド剤の長期服用時にみられる症状

- ・顔がふっくらする(ムーンフェイス：まんげつようがんぼう満月様顔貌)
- ・骨がもろくなる(骨粗しょう症)
- ・血糖値が上がる(糖尿病)
- ・血圧が上がる(高血圧)
- ・眼圧が上がる(緑内障)
- ・目がみえにくくなる(白内障)
- ・気分が落ち込む



注意!



類似のお薬(ドセタキセル)とステロイド剤による併用治療を長期に続けたときに、糖尿病が起こる場合があることが報告されています。糖尿病をお持ちの方や血糖値が高い方は、必ず投与前に担当の医師に申し出てください。

体調記入表

治療中はいつもと違う身体の異常が現れることがあります。
気づいたことはメモして担当の医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

治療の記録

回数	1	2	3	4	5
点滴した日 (曜日)	/	/	/	/	/
	()	()	()	()	()
PSA (ng/mL)					
回数	6	7	8	9	10
点滴した日 (曜日)	/	/	/	/	/
	()	()	()	()	()
PSA (ng/mL)					
回数					
点滴した日 (曜日)	/	/	/	/	/
	()	()	()	()	()
PSA (ng/mL)					
回数					
点滴した日 (曜日)	/	/	/	/	/
	()	()	()	()	()
PSA (ng/mL)					

症状の記録

日付・曜日	体温(℃)	体重(kg)	身体の具合
/			
()			
/			
()			
/			
()			
/			
()			
/			
()			
/			
()			
/			
()			
/			
()			

症状の記録

日付・曜日	体温(℃)	体重(kg)	身体の具合
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			
/ ()			

ジェブタナによる治療を受けられる方へ
前立腺がん

監修

群馬大学大学院医学系研究科泌尿器科学 教授 鈴木和浩 先生

緊急連絡先



大鵬薬品工業株式会社